



### ■ 島台 ■



神前と新郎新婦の席の間に設けられた島台には、高砂松をかたどった松が飾られています。そのほかに白砂（または白米）、鶴（雄、雌、雛）、亀2匹、尉、姥などを飾ります。

### ■ 結納の儀 ■



結婚式の前に、結納の儀を行います。結納では、新郎と新婦が互いを讀める和歌を讀み上げます。和歌が書かれた短冊は、新郎の歌は松の枝に、新婦の歌は梅の枝につけられています。これを仲人から受け取り、歌を讀み上げます。その後、仲人を介して短冊を交換し、神前にお供えます。この儀式は結婚式の中でも行えます。古式にならない、歌で気持ちを交わすことも、奥ゆかしいものです。



### ■ 玉串捧奠 ■ (京都府亀岡市天恩郷 万祥殿)

伊弉諾尊、伊弉冊尊が天のみ柱をまわったように、新郎新婦は島台の前後で左右に交差しながら神前へ進みます。玉串をささげてからは、島台で入れ替わらずに席へ戻ります。帰りも入れ替わるとせつかつ夫婦の契りが解けてしまうからです。

### ■ 平安時代のいでたちで ■



新郎は狩衣（かりぎぬ）を、新婦は十二単（じゅうにひとえ）を着用できます。どちらも平安時代にできた古式ゆかしい衣装です。狩衣は公家が着用したのが始まりで、十二単は公家の妻が着用していました。

能「高砂」は夫婦にまつわる話  
「高砂や〜」のフレーズに、聞き覚えのある方も多いのでは。テレビドラマで結婚式のシーンに、祝言として語られたりする曲です。  
高砂は、神さまが主人公の能です。さらに、夫婦について物語が進むのが、高砂の特徴です。謡や舞には、夫婦の長寿の願いがたくさん込められています。



### 伊弉諾尊、伊弉冊尊の神示にならって

神前式は明治時代に大正天皇が式を挙げたのが始まりという説もありますが、一元をたどると、神代の時代までさかのぼります。古事記によると、神生み、国生みをした伊弉諾尊、伊弉冊尊は、天のみ柱を伊弉諾尊は左側から、伊弉冊尊は右側からまわり、再び出会って言葉をかけま

す。大本ではこの故事にならない、神前に向かって左側から新郎が、右側から新婦がまわり、玉串をささげます。その後、「夫婦固めの盃」で、島台の前で盃を交わします。これらの儀式は、大本の祭典楽器である八雲琴の音色が場内に響く中で行われます。

### 神さまの前で

す。大本ではこの故事にならない、神前に向かって左側から新郎が、右側から新婦がまわり、玉串をささげます。その後、「夫婦固めの盃」で、島台の前で盃を交わします。これらの儀式は、大本の祭典楽器である八雲琴の音色が場内に響く中で行われます。

齋主が祝詞を奏上します。祝詞文には結婚する2人が睦まじい家庭を築くことを誓い、さらに子孫繁栄を願う言葉がつけられています。

### ■■ 聖地の神殿で結婚式を ■■

京都にある大本の2つの聖地では、年間を通して結婚式を受け付けています。  
※ 定例の祭典日には式を行えませんので、お問い合わせください。



■ 万祥殿 ■  
教祖の一人・出口王仁三郎聖師さまの出身地である京都府亀岡市にあります。神殿造りに現代様式をとり入れた大本独特の建物です。この神殿で結婚式を行います。



■ 長生殿 ■  
大本の発祥地である京都府綾部市にあります。日本の伝統建築で建てられた、銅板葺の屋根が美しい建物です。結婚式はそのうちの白梅殿で行います。